

酷暑の季節になりました。現在会員登録数 4,708 人さま。次号は 8 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※今月は休載です

《6》富安陽子 I I C L O ストーリーコンペ 第3回

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■ ----- ■
【1】お知らせ

●今週末開催！ オンライン講座「2025年に出版された子どもの本から」
2025年に出版された新しい子どもの本約250冊をテーマやジャンル、年齢別に紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。

◇リアルタイム参加（Zoom） 7月25日（土）10:30～15:00（昼休憩あり）

質疑応答の時間あり。録画配信も視聴可。 定員80人、参加費1000円

※お申し込みは Peatix から <https://2025kodomonohon-1.peatix.com/>

◇録画配信 8月7日（金）～12月21日（月） 視聴料1000円

※お申し込みは Peatix から <https://2025kodomonohon-2.peatix.com/>

●《ご寄付をお願いします》 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

■ ----- ■
【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『しかたなし日記』 市川宣子/作 堀川真/絵 童心社 2026年6月 対象
年齢：小学校中学年以上

*今回のゲストは当財団理事の宮川健郎さん（T）です。

*作品の結末まで書いています。

あらすじ：なこちゃんとゆうちゃんとうくんは同じマンションに住む登校仲間。なこちゃんの家族が、日曜日にディズニーランドに行けなくなって、

怒った弟のあっくんがイスをけて、それがたんすに当たってなこちゃんの鏡が落ちて割れて、自分で掃除をしなければいけなくなり、ディズニーランドの代わりにショッピングモールで1000円のパフェを食べたことを語ると、ゆうちゃんが「しかたないか」という。すると、こうくんが「あのさ、なにが『しかたない』のかなあって」と突っ込む。そこから、ゆうちゃんは、「しかたなし日記」をつけ始め、3人で「しかたなし」という芋判を作る。そして、それぞれにどこまでが「しかたない」のかを考える。特に、こうくんは、シングルマザーのお母さんが手術をすることになって、おばあちゃんが来ることになる。こうくんは、それをどう受け止めればいいのか悩む。

T：なこちゃんの家族がディズニーランドに行けなかったというエピソードから始まって、こうくんとおばあちゃんもいっしょにディズニーランドへ行くエピソードで終わります。

Y：その間に、子どもたちが「しかたないってどういうこと？」というのを、自分たちで考え、助け合い、深めていく過程がおもしろかったです。

T：「しかたない」というひとつの言葉にも、いろいろな「しかたない」があることがわかります。子どもは、大人の経済的基盤のもとで暮らしているから、大人の事情に振り回されてさまざまな「しかたない」状況に陥ります。この本にはありませんが、その最たるものが転校です。この本では、家庭内ではこうくんのお母さんの病気、学校では苦手な給食のメニューなどが描かれ、友だち関係の中でのしかたなさも描かれます。

Y：しかたなさのエピソードがとても具体的で、子どもの日常に即しているのがおもしろいと思いました。特に、なこちゃんが、算数ができなくても、跳び箱ができなくても「しかたない」と思ってにこにこしていて、先生に熱があるんじゃないかと心配されるエピソードには笑ってしまいました。

T：こうくんの面倒をみるために来たおばあちゃんが、朝ごはんにこうくんのきらいなミョウガのみそしるを作ったところもおかしかったです。

また、子どもたちが「しかたない」を乗り越えるために、芋判や消しゴム判の「しかたなし」はんこを作って、日記や自分の心に押すところも「うまい！」と思いました。

Y：そして、保健室の愛子先生もいい味出しています。子どもたちが愛子先生に「しかたなし日記」について語る場面があることで、子どもたちの「しかたなし」についての考えが深まります。「しかたないって……、あきらめられてことなのかもねえ」という愛子先生のことばが印象的でした。

T：愛子先生は、「しかたなしって決めていいかどうか、その場ではわからないぐらい、むずかしいことかもしれないね。」とも言います。

Y：挿絵もユーモラスで、何日かがたったということを示すのに、4コマの絵で表現しているところも工夫があるなと思いました。

T：こうして読んでいくと、もしかして、最初のディズニーランドへ行けなかったエピソードはしかたがなかったのかどうかと読者が考えるかもしれないと思って読み終わりました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第130回 「ポランの広場」

笑いのあるファンタジー

童話「ポラーノの広場」(本メルマガ No.96~97 参照)には、「ポランの広場」という初期形態があります。この作品の第3章部分を脚色したのが戯曲「ポランの広場」です。芝居好きとして知られる賢治には、「飢餓陣営」(No.105)

「植物医師」(No.136)「種山ヶ原の夜」を含め、4つの戯曲がありますが、いずれも農学校教員時代に生徒に上演させたものです。

時は「一千九百二十年代、六月三十日夜」、場所は「イーハトヴ地方」。オーケストラが演奏され、甲虫の翅音がきしるなか、幕は開きます。舞台は電燈やモールで美しく飾られ、背景には「まっくろな夜の野原と空、空にはしらしらと」わたる銀河。「しろつめくさのいちめんに咲いた野原のまん中」で、給仕が山猫博士に酒を注いでいます。そこにやってきたのが、博物局十六等官のキュステと、ファリーズ小学校生徒のファゼロです。山猫博士を見た二人が交わす会話が、冒頭の引用部分です。

水を飲むファゼロたちを山猫博士がからかい、横柄に振る舞ったことから諍いが起こり、即興の歌でやり返したファゼロに山猫博士はナイフでの決闘を迫ります。敗れた山猫博士は舞台から退場し、葡萄園の農夫は「東から勇ましいオリオン星座がのぼるまで、このつめくさのあかりに照らされ、銀河の微光に洗われながら、愉快に歌いあかそうじゃないか」と呼びかけ、ほどなく円舞が始まったところで物語は終わります。

イーハトヴという地で暮らす人々と、山師的存在ともいえる山猫博士との対立を描きつつ、歌や踊り、オーケストラなどを通して楽しく幻想的な劇に仕立てています。本メルマガ No.136 において、馬車別当は戯曲「植物医師」を「「悪党」が同時に「道化」となる変転の劇」としました。これは、「レデースアンジェントルメン、諸君の忠告によって僕は退場します。さよなら。」とすばやく舞台を下り、演者にひどく笑われる山猫博士にもあてはまるようです。(ペ吉)

(本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション2 注文の多い料理店』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 85

「ぼく、やっぱりできないよ・・・」

おーちゃんがこういいだしたのは、日曜日の朝のことでした。

「できないってなにが？」

「人間をおどかすのも、木枯らしにのっていくのも・・・」

いうと思った、というのが、ぼくの正直な感想でした。

「なんだよ、商店街ではずいぶんとおどかしてくれたじゃないか」

「ああ、あの時はなんか元気がでたの。背中、あったかかったからかな」

(『おばけのおーちゃん』 市川宣子/さく さとうあや/え 福音館書店 2002年5月 P.50)

対談で紹介した市川宣子の幼年文学作品です。子どもの時、松谷みよ子『オバケちゃん』(講談社 1971年2月)に親しんでいた私は、それ以降の「おばけ」が出て来る幼年文学作品についてどうしても『オバケちゃん』と比べてしまって、おもしろさを感じられないでいました。

そんなとき、出会った『おばけのおーちゃん』は、『オバケちゃん』とは違う個性的な「おーちゃん」で、新しい幼年向けの「おばけ」物語が出版されたと思ってうれしくなったことを覚えています。

おばけのおーちゃんは、家賃「ただ同然」のぼろぼろの家に住み始めた「ぼく」の前に現れます。「風にめっぽう弱くて、うちの風にもさからえない」おーちゃんは、「ふきとぼしたりしたら、おどかして悲鳴食べちゃうんだから」と「ぼく」に言うとおりの、悲鳴を食べたら大きくなります。ところが、引っ込み思案で怖がりのおーちゃんは、人をおどかすのが苦手でなかなか大きくなれません。おばけたちは冬には、木枯らしにのって仲間と南の国に渡るはずなのに、おーちゃんは「ぼく」にぴったりひつついて小さいまま、商店街の買い物にもついてきて、「おでんかって」などと、「ぼく」に話しかけます。

「ぼく」が商店街に買い物にでかけたのは、友だちを招くため。おーちゃんが「ぼく」の友だちをおどかして、友だちの悲鳴を食べて大きくなり、渡りに出掛けられるように企てたのです。ところが、引用にある自信のないおーちゃんの言葉。どんなに勇気づけられても、はっぱをかけられても、なかなかがんばれない子どもの気持ちと重なり合って共感できると思いました。このあと、おーちゃんは無事、「ぼく」の友だちの悲鳴を食べて渡りに成功しますが、渡りから帰ってきても、やっぱりおーちゃんらしく、「ぼく」はそんなおーちゃんを愛しく思っている様子が伝わります。そして、結末では、おーちゃんも「ぼく」も仲良しを見つけるところに満足感を得ました。(Y)

《4》 行って来ました！

芦屋市立美術博物館で9月27日まで開催されている「チェコ絵本の作り方ボロニーヤ国際絵本展受賞絵本から日・チェコ共作のコミックまで」に行ってきました。絵本の原画、リトグラフ、下絵など100点以上と、絵本や読物約180冊が展示されていました。全体の構成は、1章「絵本でみるチェコ絵本史」、2章「現代のチェコ絵本」、3章「21世紀の「美しい本コンクール」受賞絵本」、4章「チェコ絵本と日本人作家」、5章「現代のチェコ・コミック」となっていました。

2章には現代の作家が紹介されています。原画が展示されていたミハエラ・クコヴィチョヴァー「ジス・イズ・プラハ」は、チェコの絵本作家ミロスラフ・サセック(1916-1980)の「This is…」シリーズへのオマージュ作品で、ストーリーはサセックの姪であるオルガ・チェルナーが担当しています。プラハにまつわるさまざまな写真や絵がコラージュされていて、プラハの魅力が伝わってきました。

エヴァ・ヴォルフォヴァーの刺繍とアップリケで描かれた「糸とはずれたボタン」は、黒と赤の糸でステッチされた人の、スナップボタンの目が取れている絵、糸巻きの上に長いおさげの小さな人形のような女の子がのっている絵があって、素材が生かされた作品になっていました。

クララ・ザフロードコヴァー「ウマとヘビ」は、「ブレーメンの音楽隊」のように馬の上のにわとりやヘビなどが乗って窓をのぞいている絵や、電車に乗っているウマがつかんでいる吊皮がヘビになっているリノカットの絵があって、ユーモラスな雰囲気が伝わってきました。

4章「チェコ絵本と日本人作家」には、日本人作家のチェコ児童書界での活躍が紹介されています。その中でも、出久根育絵「とらわれた銀の太陽」(ミロシュ・クラトフビール著)は、ゲームの世界へ行く少年の物語とのことで、太陽に向かって手を伸ばしている子どもたちの絵が印象に残りました。

5章「現代のチェコ・コミック」で紹介されていた文字なしの絵本であるカテナ・イルネロヴァー「陶器の王国での冒険」は、陶器の絵の世界を旅する漁師の物語です。陶器の形に切り取られたページにはさまざまな模様が深みのある青で描かれており、目がついています。どんな旅をするのだろうかと思像をふくらませました。

歴史を振り返ることで改めてチェコの芸術性の高い絵本のすばらしさを感じることができました。(K)

芦屋市立美術館 <https://ashiya-museum.jp/>

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

今月は休載します。

来月配信の次号(N0.192)からは、第7章「天沢退二郎先生」です。

<これまでの連載はこちらから>

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html

《6》 富安陽子 I I C L O ストーリーコンペ 第3回

応募締め切り間近！

2つのキーワードを使った童話作品を募集します。400字詰め原稿用紙5～10枚で、未発表作品に限ります。

◎第3回のキーワード…「トビウオ」「くつ下」

応募締め切り：7月31日(金)

富安理事長がおもしろい作品5～6点を選び、メールマガジン N0.192(8/20発行)で発表。その後、読者にいちばんおもしろいと思った作品に投票していただき、1位と2位を決定します。

童話を書くのは初めての方も、腕だめしの方も、ぜひ、ご応募ください。

<詳細、応募方法はこちらをご覧ください>

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/storycompe.html

■-----■

【3】全国のイベント紹介

■-----■

●「西巻茅子 ラララン ロロロン すてきな げんがてん」

会期：開催中～9月6日(日)

主催・会場：姫路文学館〔姫路市〕 ※月曜休館、有料

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■-----■

【4】プレゼント

■-----■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『しかたなし日記』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前

(2) 郵便番号・住所 (3) 電話番号 (4) メールアドレス、よろしければ (5) このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。
応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>
締切は8月11日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

夏休みに入りました。子どもたちは、みんな涼しい屋内でゲームをしている
と思いきや、近所の公園では多くの子どもたちが汗だくで遊んでいます。暑
さよりも楽しいことに夢中になれるなんて、うらやましく感じました。
(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお
願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

